地域づくり表彰

ウエルシア・コミュニケーションセンターいちはら（ウエルコミ）
（千葉県市原市（いちはらし））

ドラッグストアの２階がまちの拠り所に

― 市原市×ウエルシア薬局×NPOの公民連携拠点 ―

ウエルコミ
コーディネーター
峯川（みねがわ）　大（ひろし）



１．市原市の概要

市原市は千葉県のほぼ中央にある人口約27万人のまちです。県内最大の市域を有し、臨海部には石油コンビナートが形成されるとともに、小湊鐵道が走る養老渓谷などの豊かな里山を併せ持ちます。

また、市内の地層は地質時代「チバニアン」の名の由来となるなど多様な地域資源を有しています。

２．ウエルコミ開設の経緯

2017年に市の市民活動支援センターが廃止され、市民活動を支える場の再構築が課題となっていました。

こうした中、市内に複数の店舗を展開するウエルシア薬局株式会社から、市原国分寺台店2階のスペースを一緒に活用できないかとの提案がありました。市はこの機会を、中間支援機能を新たな形で、再構築する好機と捉え、同社と連携協定を結びました。

そして、2021年10月に市原市、ウエルシア薬局株式会社、NPO法人いちはら市民活動協議会（市民協）が協働で運営するウエルシア・コミュニケーションセンターいちはら（通称：ウエルコミ）を開設いたしました。

【ウエルコミとは】

ウエルコミは、千葉県市原市のウエルシア市原国分寺台店2階にある市民活動拠点です。ドラッグストアの中に市民活動拠点を置く、ウエルシア薬局として全国初の取組で、市民活動の場でありながら、こどもの居場所づくりや不登校支援、健康増進、孤独・孤立対策の拠点にもなっています。



2階がウエルコミ

３．公民連携を支える三者

【ウエルシア薬局：場と専門性】

店舗2階の提供と維持・管理等を行うとともに、専門人材や取引先とのつながり、全国の店舗のノウハウを持ち込んでいます。

【市原市：地域全体の調整】

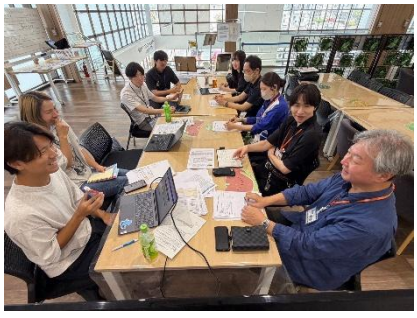
現場の運営をNPO法人いちはら市民活動協議会（市民協）に委託し、庁内の関係部署や大学、関係機関などとウエルコミをつなぎ、取組を市の施策と結びつけています。

【市民協：企画から運営まで】

中間支援組織として市内の多様な団体とつながり、日常的な相談対応、団体間の調整、事業の企画・運営までを担っています。

【三者が集まる運営委員会】

三者は毎月欠かさず定例会議である「ウエルコミ運営委員会」を開き、各主体が「できないこと」も率直に共有しています。誰も我慢せず、無理なく資源を持ち寄れる関係だからこそ、継続的な運営と新たな事業の創出に繋がっています。



毎月の運営委員会

４．コミュニケーションが軸

【生活動線上の地域拠点】

ウエルコミは「コミュニティセンター」ではなく「コミュニケーションセンター」です。買い物のついでに立ち寄れる生活動線上にあるため、困りごとや「やってみたい」を気軽に話せ、さまざまな活動とつながるきっかけが生まれます。

【どんな相談もまず受け止める】

ウエルコミでは、分野を問わず寄せられる市民の声をまず受け止め、三者が集まる運営委員会で共有します。

一つの相談が、三者の協議を経て新しい事業や多主体連携へと昇華され、地域課題の解決につながっていくことが、ウエルコミの最大の特徴です。

【つなぎ役のコーディネーター】

利用者の声を受け止め、三者の協働を日々の現場で動かしているのがコーディネーターです。市の施策、企業の資源、市民の声を一つの場で結びつけ、分野や公民の垣根を越えて企画を形にしていきます。この役割があることで、三者の連携が具体的な事業や課題解決へとつながっています。

５．つながるきっかけづくり

人と人、人と活動をつなぐ協働の輪を生むために、次のような工夫をしています。



ラウンジ

【用がなくても居られるラウンジ】

無料で使えるラウンジは、何の用がなくても居られる場所です。平日の昼は高齢者が語らい、夕方や土日はこどもの居場所になります。

【テーマを揃えて出会う】

千葉県立中央博物館が化石や「チバニアン」の出前展示を開く日に、市立図書館が化石の絵本を読み聞かせるなど、テーマを揃えて別々の資源と人を結びつけています。参加者の約半数は同博物館を知らなかった方々でした。



千葉県立中央博物館 出前展示

６.「桃太郎式」で仲間を増やす

コーディネーターが受け止めた相談が事業になった代表例が、こどもの居場所です。2022 年 4 月にウエルコミで始めたこどもの居場所に、不登校の子を持つ保護者 2 人が、市内の居場所の少なさについて相談に訪れました。この声を運営委員会で共有・協議した結果、ウエルコミを市内に居場所を広げる「ハブ」にすることにしました。

2023 年度からは、居場所の運営団体やウエルシア薬局の取引先メーカーとともに「こどもの居場所フェスタ」を開催。フェスタ後には参加した運営団体とネットワークをつくり、冊子「いちはら居場所ガイド」を毎年発行するなど、地域課題に対応し続ける体制を整えました。

2026 年 5 月のフェスタには、こども家庭庁や、帝京平成大学や淑徳大学等の学生・教授も参画し、産官学民連携の取組へと発展しました。保護者の声を起点に、桃太郎が仲間を増やすように協力者が広がりました。私たちはこれを「桃太郎式」の仲間集めと呼んでいます。

その結果、市内のこどもの居場所づくり団体は<u>6 団体から 44 団体超</u>に増え、市は 2025 年度、フリースクール利用料補助など 3 つの支援制度を創設しました。相談に来た 2 人の保護者は今、市の「こどもの居場所づくりコーディネーター」として勤務し、支援される側から支える側に回っています。



こどもの居場所フェスタ

７. ウエルシア薬局の健康づくりと CSV

【身近な小売店も地域資源】

ウエルシア薬局には、市内 3 店舗（五所店、姉崎店、牛久店）の店舗内に「ウエルカフェ®」（地域交流のフリースペース）があり貴重な空間的地域資源になっています。市内外のウエルカフェ 7 ケ所と同時開催のオンライン講座も毎月開いて、デジタルを使った交流も実施。2026 年 5 月には、同じ 2 階に泌尿器科クリニックも開院して、さらに身近で安心する場になりました。

【薬剤師・管理栄養士が地域へ】

ウエルシア薬局の薬剤師や管理栄養士が、健康づくりの講座を開いています。それ以外でも、ウエルコミを健康診断の会場に利用されている組合と協働で、「薬剤師による検査値の見方講座」「健康クイズ」なども開催していて、健診受診率が向上しています。さらに、ウエルシアの専門職だけでなく、ウエルコミで企画するイベントでは、ウエルシアの取引メーカーとのつながりも、まちの大切な人的地域資源になっています。

【共通価値の創造（CSV）】

ウエルシア薬局は本取組を、地域課題の解決と企業価値の向上を両立する「共通価値の創造（CSV）」の実践と位置づけていて、来店客数や売上は増加し、参加した社員の地域とのつながりや接客力向上にもなっています。

８. 孤独・孤立対策の入口に

買い物のついでに立ち寄れるウエルコミは、地域とのつながりが薄れがちな人にとって、孤独・孤立を防ぐ身近な入口にもなっています。

【グランパ・フェスタ】

毎年ウエルコミで開く「グランパ・フェスタ in いちはら」は、定年退職後の男性を主な対象にした市民活動フェスタです。市内の 20～30 団体が活動を紹介し、市民活動の新たな担い手づくりに寄与しています。



グランパ・フェスタ

９. 成果

ウエルコミの登録団体は開設時の 34 から約 400 団体に増えました。月の利用者は約 2,000 人で、開設初月の約 2 倍です。

2026 年現在、市の三つの部局（市民生活部・子ども未来部・保健福祉部）の事業と、買い物・健康・医療・居場所が一か所に集まり、<u>地域生活圏の市原モデル</u>が形成されつつあります。

10. 今後の展望

ウエルコミは、2026 年 10 月に開館 5 周年を迎えました。誰もが身近な場所で居場所や役割を見つけられる、市民一人ひとりのウェルビーイングの実現を目指し、これからも発展していきます。

ウエルコミ WEB サイト